

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 長崎県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	長崎市立伊良林小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	4	4	3	1	21	28
児童数	109	109	114	126	121	114	5	698	

研究の概要

1. 研究主題

生きる力をはぐくむ算数科の授業  
～楽しい授業作りと基礎・基本の定着に向けて～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数科

- ・算数科は、他の教科と比べても系統性の高い教科である。また、既習の内容の理解度により、個人差が生じやすい教科でもある。そのため、6ヶ年を見通した教育活動が必要ということもあり、全学年及び算数科で研究を進めることにした。
- ・楽しい授業を展開すると同時に基礎・基本の定着を図ることにより、児童一人一人が学ぶことに興味を持ち、自主的・意欲的に学習に取り組むことができる。さらに、学習を通す中で、「生きる力」を身につけることができると考えたため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>○テーマ 生きる力をはぐくむ算数科の授業作り</p> <p>○仮 説 算数科の授業において、目標を明確にし、個に応じた指導体制や教材・学習過程を工夫することにより楽しい授業を展開すれば、児童が学ぶことに興味を持ち、自主的・意欲的に学習に取り組むであろう。そのことにより、授業の中で「生きる力」に関わる資質が伸ばされると同時に基礎・基本の定着が図られるであろう。</p> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科における学力、基礎・基本についての理論研究</li> <li>・指導体制(一斉, TT, 少人数, 習熟度別)を工夫した授業研究</li> <li>・指導者招聘による授業研究会の実施</li> <li>・授業(理論)研究, 調査・資料, 環境整備3班構成による研究</li> </ul>
--------	--

平成15年度	<p>○テーマ 生きる力をはぐくむ算数科の授業</p> <p>○仮 説 算数科の授業において、楽しい授業を展開すると同時に基礎・基本の定着を図れば、児童が学ぶことに興味を持ち、自主的・意欲的に学習に取り組む、それに伴って「生きる力」に関わる資質がのびされるであろう。</p> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科における学力、基礎・基本についての理論研究</li> <li>・指導体制(一斉, TT, 少人数, 習熟度別), 教材, 学習過程を工夫した授業展開の効果について(学年・単元などから)の研究および検証</li> <li>・算数科における基礎・基本の選別およびワークシート等の作成</li> <li>・指導者招聘による授業研究会の実施</li> <li>・中間研究発表会の実施(11月)</li> <li>・授業改善, 基礎学力2班構成による研究</li> </ul>
--------	--

平成 16 年度	<p>○テーマ 生きる力をはぐくむ算数科の授業</p> <p>○仮説 算数科の授業において、楽しい授業を展開すると同時に基礎・基本の定着を図れば、児童が学ぶことに興味を持ち、自主的意欲的に学習に学習に取り組み、それに伴って「生きる力」に関わる資質がのびされるであろう。</p> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1, 2年次の反省, 研究内容の工夫改善</li> <li>・ 指導体制, 教材, 学習課程の工夫による研究授業の実施</li> <li>・ 算数科における基礎・基本の定着に向けての取り組みおよび検証</li> <li>・ 研究発表会の実施</li> </ul>
----------------	---

### (3) 研究推進体制



#### 昨年度との違い

- ・ 研究推進部の構成員をスリム化したことにより、提案に向けての打ち合わせ等の時間を容易に確保することができた。
- ・ 昨年度は、3班での班会であったが、今年度は2班に絞り研究を進めた。

#### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

##### 1. 研究成果

- ・ 算数的活動を中心とした教材の工夫により、子どもたちにとって、授業がより興味深いものへ、理解がしやすいものへと変わっていった。
- ・ 指導体制を学年や児童の実態に応じて工夫することができた。TT 少人数指導 習熟度別指導へとつれ、児童が楽しいと感じていることが「算数意識調査」でも明らかになった。
- ・ 子どもたちの声の中に、「分かるから楽しい」というものが多く、学ぶことが楽しいと考えている児童が増えてきた。
- ・ 1学期に行った学力検査では、昨年度の検査結果より偏差値(全国)が4学年中3学年で上昇していた。そのことより、基礎・基本が少しずつ定着してきていることが推測される。

##### 2. 今後の課題

- ・ 時間割の調整, 指導体制の確認など教師側の打ち合わせ時間の確保の問題。
- ・ 各学年が少人数指導および習熟度別学習に取り組むことができるように、年度当初に教育課程を含め計画を綿密に立てる必要がある。
- ・ 児童一人一人によりきめ細かい指導ができるよう、「評価」についてより研究の余地がある。

#### 学力等把握のための学校としての取組

- ・ 1学期(7月) 2年生以上の全学年において学力検査を実施
- ・ 2学期(10月) 全児童対象に算数科における意識調査を実施
- ・ 3学期(1月) 5年生に県下一斉の基礎学力調査を実施

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年11月20日 学力向上フロンティアスクール事業 中間発表会実施
- ・研究紀要の作成
- ・本校ホームページへの掲載

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	平成14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	